

水木しげる氏

表紙絵

＝ムフフ やっとつかまえた＝

表紙絵：水木しげる

- | | |
|------------------------------|-----|
| ・ 特集：緑ヶ丘分館/富士見分館開館50周年 | 2～5 |
| ・ 貸出システムの歴史 | 6～7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 | 8 |



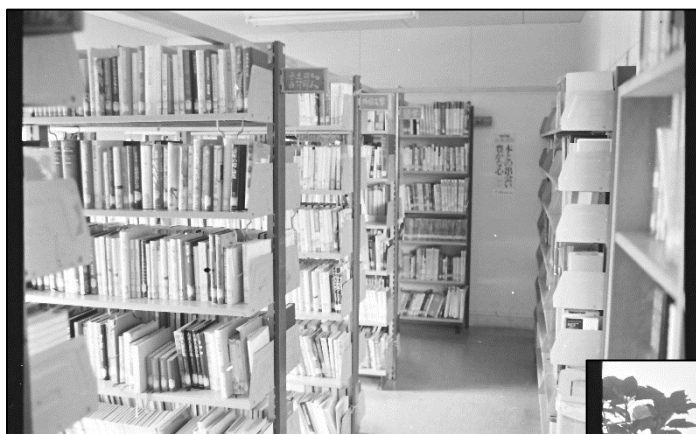
祝！50周年



緑ヶ丘分館と富士見分館は、1974年7月20日に開館し、今年で開館50周年を迎えました。節目を迎えた2館をご紹介します。

緑ヶ丘分館

【開館当初の様子】



開館日当日
蔵書冊数：7,212冊
来館者数：298人
貸出冊数：873冊

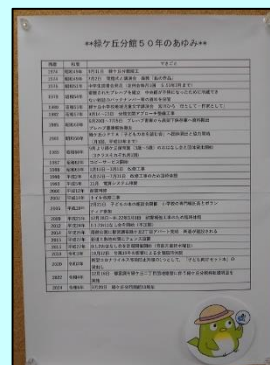
開館当日はあいにくの雨で、日誌に「子供達はカサをさして開ける午後1時より前から行列をつくっていた」とありました。また、地域の読書会の方や、他の分館での実習経験がある大学生が手伝いに来てくださったことも書かれていました。



【開館50周年記念事業】

写真展

写真パネルと
緑ヶ丘分館の50年をまとめた
年表を掲示しました。



メッセージ募集・掲示



50周年のお祝いメッセージを、葉っぱの形のメッセージカードに書いていただき掲示しました。



図書館公式キャラクター「じろ」やお気に入りの絵本のイラストが添えられたカードもありました。
たくさんのメッセージを書いていただき、ありがとうございました！



開館50周年記念おはなし会

令和6年7月20日（土）に「開館50周年記念おはなし会」を開催しました。
0・1・2歳対象、3歳～小学生対象の2回行い、合計21人の参加がありました。

夏休み初日ということもあり、家族みんなでおはなし会に参加してくれた方もいました。
絵本の読み聞かせの他にも、布の絵本や手遊びで楽しい時間を過ごしました。
たくさんのご参加をありがとうございました！



手遊び「ちゃつぽ」をしている様子

緑ヶ丘分館は、緑ヶ丘二丁目団地の建替え工事に伴い、数年後に移転が予定されています。
より良い図書館になるように計画を進めていきます。

富士見分館

【開館当初の様子】



開館日当日

蔵書冊数：7,583冊

来館者数：213人

貸出冊数：521冊

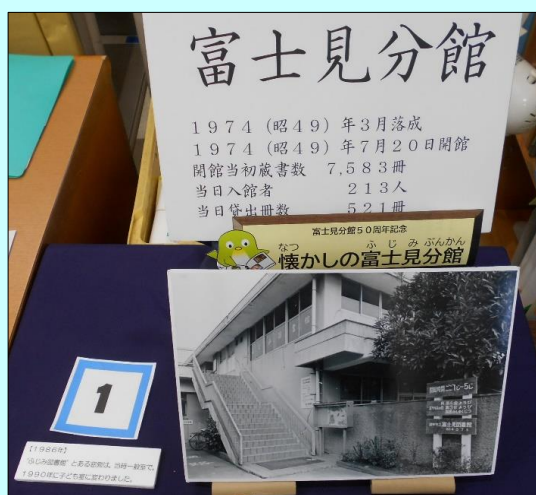


開館当日の日記には、

「午後1時開館。1時間ほど前から子どもたちが1人また1人とふえ、時計の針が1時を指すと同時に、歓声をあげてなだれこんできた。」とあり、開館を心待ちにされていた様子うかがえます。

【開館50周年記念事業】

写真展



開館当時の様子等を写した写真パネルを掲示しました。



メッセージ募集・掲示

「わたしととしょかん」と題した利用者からのメッセージカードを募集・掲示しました。長く富士見分館を利用してくださっている方からお子さんまで、皆様からあたたかいメッセージをいただきました。一部をご紹介します。

私にとって図書館はなくてはならないものです。私が住みはじめた頃は、この場所がとうもろこし畑だったことを覚えています。永い付き合いですがこれからもよろしくお願いします。

富士見図書館のみなさんへ
いつも本をかしてくれてありがとうございます！わたしは学校で手芸クラブに入っているので本がやくだっています！

50周年おめでとうございます。毎週のように利用させていただいています。仕事の調べもの用に予約した本の受け取り、館内閲覧はもちろんですが、何気なく手に取った本がヒントになる本が多く、小さな図書館の意外な効用です。



掲示の様子

どようびのおはなし会

どようびのおはなし会

富士見分館開館50周年記念

図書館富士見分館の開館50周年を記念して、土曜日のおはなし会を開催します。

手遊び、わらべうた、絵本の読み聞かせなどを行います。ぜひご参加ください。

対象：3歳から小学生

日時：令和6年6月～令和7年3月 毎月第2土曜日

10時30分～10時45分

会場：図書館富士見分館 集会室

おはなし会のある日

2024年～2025年	
6月8日	11月9日
7月13日	12月14日
8月10日	1月11日
9月14日	2月8日
10月12日	3月8日

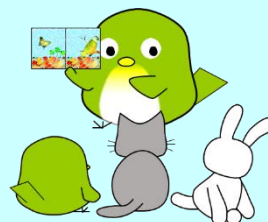
Welcome

図書館富士見分館
TEL: 042-481-7664

令和6年6月から令和7年3月まで毎月第2土曜日に「どようびのおはなし会」を開催しています。

第1回目は7人、第2回目は8人の子どもたちが参加しました。平日の参加が難しかったため図書館のおはなし会に初めて参加した子が多く、緊張しつつも、どきどきわくわくした表情で絵本や手遊びを楽しんでいました。

皆様のご参加お待ちしております！



50年間支えてくださった皆様に感謝し、これからも地域に根差した図書館づくりを目指していきます。

調布市立図書館 貸出システムの歴史



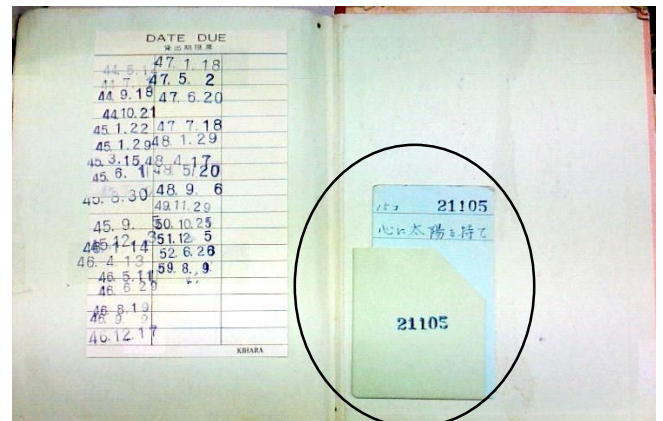
＜ブラウン式＞

1966

貸出券・ブックカード・ブックポケットを使用して貸出・返却を行うシステム

ブラウン式では、図書館ごとに利用できる「貸出券」を使用して、本を貸出します。利用者は、利用する図書館ごとに「貸出申込書」で申請し、各館で「貸出券」を発行する必要がありました。

貸出し中は、本のブックポケットに入っている「ブックカード」を「貸出券」の中に入れて、各図書館で管理します。返却時に「貸出券」を利用者に返却する仕組みになっていました。



ブックポケットとブックカード

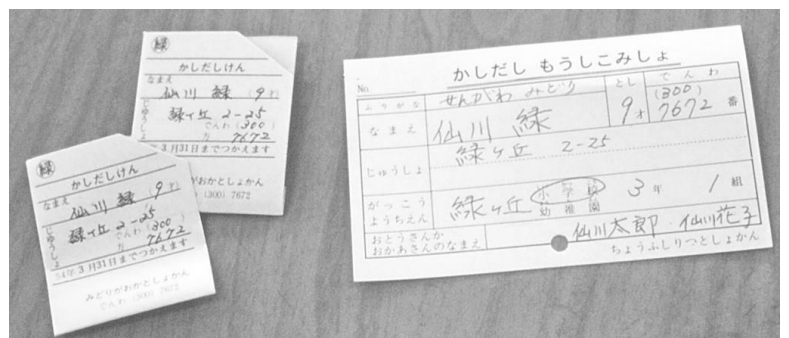
～当時を知る利用者のエピソード～



貸出券は館ごとに発行していたため、複数館を利用して本を借りていました！



貸出手続きの様子



貸出券と貸出申込書

～当時を知る利用者のエピソード～

子どものころ、日付印を「がっちゃん」と押してもらうのがうれしくて、一日に何度もカウンターに行きました！



IC タグ による貸出システムはどういうもの？

IC タグシステムでは、図書館の本一冊ずつに IC チップを貼付し、本を管理します。

IC タグシステムに変更することで、今までよりも貸出や返却を簡単に行うことができます。
2025 年 2 月から稼働予定です。

また、中央図書館では予約した本を利用者自身で受け取れる「予約本受取コーナー」を設置する予定です。

詳細は、市報、市及び図書館ホームページ、テレビ広報ちょうふなどで順次お知らせします。

1991 < 電 算 シ ス テ ム >
コンピューターで貸出・返却を行うシステム

2025 < IC タ グ >



電算システム導入当時の
貸出し手続きの様子

調布市立図書館で初めて電算システムを導入したのは、1991 年（平成 3 年）で、3 年かけて全館に導入しました。電算システム稼働直後は、左の写真のように、ブラウン式の返却手続きと併用して行っていました。

電算システムを導入したことで、貸出券が各館ごとの発行から全館共通で使える 1 人 1 枚のバーコード式のカードに代わりました。



現在発行している利用カード

現在は利用カードのほかに、^{フェリカ}Felica や
利用カードのバーコードを
スマートフォンなど
で表示するシステム
でも貸出しを
行っています！



～電算システム導入で図書館はこんなに便利になりました！～

電算システムを導入したことで、貸出冊数が増加したことに加え、コンピューターを使用した蔵書検索、予約、貸出期間の延長などを利用者自身で行えるようになりました。電算システムの導入は図書館サービスの拡大に大きく貢献しました。

～当時を知る利用者のエピソード～

ブラウン式のころは、午後しか開館していなかったため、赤ちゃんを連れて静かに本を読むことが難しかったけれど、電算システムが入って朝から開館するようになり、赤ちゃんとも来館しやすくなりました！



衣服をめぐる魔除けの信仰

関口 宣明 のぶあき

はじめに

衣服は人の体を保護するだけでなく、かつてはそれを身につける人の魂がこもると考えられていました。そこで人の誕生や死に際して、魂が不安定なときには、災^{わざわ}いをもたらす魔物がその人に入り込みやすかったので、これを防ぐため、衣服の扱いにも、神祭りと同様の戒^{いまし}めや儀式が行われました。ここでは、おもに調布で行われてきた、非日常の「衣」にまつわる伝承をとりあげます。

1. 晴れ着と女性

古い時代から、布を織って神にささげる衣服を仕立てることは、女性の手によって行われてきました。また冠婚葬祭などの晴れ着ともかわりが深く、親しい女性たちが協力して作る風習がありました。たとえば、体の弱い子供が丈夫に育つように、近隣から布端を集めて産着^{うぶぎ}を作ったり、死者の着物を縫うときには、魔物が寄りつかないように糸の留めをしなかったりしました。

2. 水による清めの儀式

昭和20年前後のころ、甲州街道の滝坂下^{たきざか}を流れる入間川^{いりまがわ}では、「流れ灌頂^{かんじょう}」といって、お産で死亡した人を供養する儀式がみられました。これは川のなかに竹を四隅に立てて、墨で戒名^{かいみょう}を書いた風呂敷ほどの晒し布を張っておき、道行く人々に柄杓^{ひしやく}で水をかけてもらうためのものです。そして戒名の文字が消えたら、その人の怨念^{おんねん}による災いが防げると考えられました。

3. 千人針

千人針は、日中戦争（昭和12年～）のころから、出征兵士の武運長久を祈り、弾丸よけのまじないとするために行われました。晒し布を二つ折にした腹巻などに、千人の女性に赤糸で一針ずつ縫って玉留めしてもらうものです。赤い色には、厄年や年祝いなどに贈られる衣類と同じように、魔除けの力があると信じられてい

ました。その起りは、明治時代の日清戦争・日露戦争時に行われた「千人結び」にあるとされています。



千人針

4. 針供養

2月8日と12月8日は「針供養」の日として針仕事をせず、使い古されて役割を失った針を豆腐やコンニャクに刺して川に流したり、神社で供養したりする風習がありました。調布では嫁^{しゅうと}や姑など裁縫を手がける人がそれを各集落の神社に納めました。

正月と隣り合せのこれらの日は、もともと農業の仕事の開始と終了時にあたる季節の変わり目で、魔物が訪れる時とされていました。そこで仕事や外出をせず、身辺を清浄にたもつことで、順調な暮らしができるように神に祈りました。

針供養に豆腐を使うことは、本来、桃符^{とうふ}（中国で正月に門戸につける桃の木で作った魔除けの御札）のもとの意味が忘れられ、豆腐をこの日の特別な食物としたことに由来するといわれます。このような風習からは、人々が力を合わせたり、身を慎んだりして、災いが祓^{はら}い除かれることで、共同生活の安全が守れるという先人の考え方がみてとれます。

※参考文献：『民俗大辞典』『調布市史民俗編』

刊行物番号

2024-100

図書館だより 第272号

令和6年9月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<https://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>